

深夜午前2時過ぎに終了、6月議会の初日。 何故こんな異常事態に

6月2日午前10時、本会議への招集が32名全議員に通知され、6月越谷定例市議会がスタート予定だったが、何と開会前に島田議長が辞職願を提出した。これは異例中の異例だ。まず議長が開会を宣言して、直ぐに辞職願を提出するのが、これまでの慣例であり手続きだったのだが。(勿論規則上は何時でも議長は辞職願を出せるのだが) 実は、異例の事態は開会前の2週間ほど前に起きていた。

これまで第一会派だった自民党(当時8人)から3人が分裂して更に保守会派(4人)と合流してネクスト越谷(7人)を結成したため第一会派が変わり、自民党は5人会派となり第三会派に転落した。そのためこれまでの議会人事等を自民党(8人)、公明党(6人)等(常に過半数を占めて来たので最後は数で最大会派の意向を通して来た経緯がある)で仕切って来た体制が大きく崩壊。

このため、体制変化で最も揉めに揉めたのは本会場の議席を巡り最大会派ネクスト越谷と自民党、公明党との協議が初日を迎えても合意が出来ない混乱状態に。(ネクスト越谷は、議長席に向かって左端に固まる。自民党、公明党は、左端の現状維持を少し変更する。

このため真向から主張がぶつかりあった)この調整の責任は全て議長にあるのだが、その議長が決着をつけず早々と辞職した。(責任回避?との声が)

従って開会出来ず議席の確定は、初日の議会運営委員会の協議事項となり断続的に協議が繰り返された。結果事実上の採決で自公案に決定。(ネクスト越谷は、長時間の話合いが不調でありネクスト越谷案と自公案のくじ引きを提案したが、自公がこれを拒否。そこで議運の全議員が意見を表明した。自公案への賛成は、自民党と公明党と共産党の議員、ネクスト越谷案に賛成はネクスト越谷と市民ネットとこしがや無所属の会、中間は立憲民主党と維新の会。)



長屋から幕政 変える心意気

ISSIN TASUKE



市政リポート

一心太助 幕政に物申す。 | 越谷市議会議員
No.93 | 白川ひでつぐ

〒343-0045 越谷市下間久里477-12
TEL&FAX 048-979-3027
<http://hshirakawa.net>
shirakawa.10@gmail.com



EMERGENCY
(Cable: Days)
999

Produced by Andy Arthur
Engineer Alan Winstanley
Mixed by Steve Nye

発行 白川秀嗣
2025.7

正副議長選挙で、多数派形成が旧来の枠組みから 新たな事態へ転換

冒頭から混乱状態が起きたが、何とか本会議場での32名全議員の議席が決定した。しかし、議長不在のため副議長が開会を宣言して議会が始まったのが、午後に入ってから。議事は辞職した議長職を巡り、議長選挙が始まった。全議員の投票によって議長を決定する手順となり、公明党の畑谷茂議員と共産党の山田大助議員が立候補した結果、(畑谷23票、山田9票)畑谷議員が議長に選出された。

次に副議長選挙に入り、自民党から清田己喜男議員とこしがや無所属の会(私の所属会派)から菊地貴光議員が立候補、選挙の結果菊地議員が副議長に選出された。(清田議員15票、菊地議員17票)投票は記名投票ではないのでどの議員が誰に投票したかは全く把握出来ない。

しかし、この間の議会人事等は第一会派の自民党と第二会派の公明党と何故か立憲民主党、維新の会の連携(4派で過半数を超える。水面下での談合?)によって全て決定されて来た。

今回もあくまでも推測に過ぎないが、清田議員票は自民党5票、公明党6票、立憲民主党3票、維新の会1票、合計15票。一方菊地議員票は、ネクスト越谷7票、こしがや無所属の会4票、共産党3票、市民ネット3票、合計17票。

更にその後4つの常任委員会の正副委員長を選出、その後本会場での市長提出議案の提案説明、一般質問の質問項目の提出、その順番のくじ引きと続き初日の終了時間は、翌日午前2時を回っていた。

令和7年6月
越谷定例市議会
特集号

医療、介護等のエッセンシャルワーカーの増員と待遇改善を求める意見書。 自民党、公明党、維新の会が反対したが、賛成多数で可決

議員提出議案「安全、安心の医療・介護の実現のため人員増と処遇改善を求める意見書」の議案の賛成議員に私は名をつなれた。

この意見書の主旨は、新型コロナウイルス感染の拡大により、入院が必要にも関わらず入院できない「医療崩壊」や、介護を受けたくても受けられない「介護崩壊」が現実となった。これは、感染対策の遅れはもちろんのこと、他の先進諸国と比べても圧倒的に少ない医師や看護師、介護職員や保健師の不足が根本的な原因。

毎年のように発生している自然災害時の対応や、新たな感染症に備えるためにも、平常時から、必要な人員体制の確保を国の責任で行い、対策の中心となる公立・公的病院や保健所の拡充など以下の機能強化を強く求める。

- ①労働時間の上限規制や勤務間インターバル確保、夜勤回数の制限など、労働環境改善のための規制を設け、実効性を確保するための財政的支援を行うこと。
- ②夜勤交代制労働者の週労働時間を短縮すること。
- ③介護施設や有床診療所などで行われている「1人夜勤体制」をなくし、複数夜勤体制とすること。
- ④新たな感染症や災害対策に備えるため、公立・公的病院を拡充・強化し、保健所の増設など公衆衛生行政の体制を拡充すること。

これに対して反対討論にたった小林議員（維新の会）は、社会保険料は現役世代に大きく負担がされており上記の項目を実現するには、更に保険料を引き上げる結果となり、よりこの世代に負担が加速するため反対すると。

しかしそもそも現状の保険料の負担が不公平であり、累進的な保険料の制度改正に根本的に変えていくことを通して、上記項目も実現していくことの視点がすっぱり抜け落ちている。また自民党も、公明党も誰一人として反対討論に立たなかったため、その反対理由是不明だ。

児童館（コスモス・ヒマワリ）と保育所（桜井・蒲生）の統廃合



越谷市大袋地区センター（増額2億円要）の建設契約の締結



越谷市立小中一貫校整備、更に1億余を増額。総額149億7000万円に



防犯カメラ設置300台を増設、市内の要所に設置で合計400台に



6月議会で議決された主要事業

せんげん台小学校等の校舎外壁改修工事、令和9年2月完成



消防署高規格救急自動車2台と高度救命処置機材2台分を更新



駅前保育ステーションからの送迎バスを廃止。利用者の減少を受けて



動画で解説（3分～5分）・二次元バーコードからアクセス